

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

1月8日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみ」、「なか」、「しも」、の3カ所で、表層から水深30mまで3層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、「なか」でザラボヤの浮遊幼生が1個体確認されました（表1）。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温 (°C)	クロロフィル ($\mu\text{g/L}$)	ザラボヤ		ユウレイボヤ		その他のホヤ		ヒトデ		フジツボ	
				個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ
かみ	0~10m	6.2	0.4~0.5							1	2.5		
	10~20m	6.2	0.4~0.7										
	20~30m	6.2	0.4~1.9										
なか	0~10m	6.1	0.4~0.6	1	2.5					1	2.5		
	10~20m	6.1	0.4~0.6							1	2.5		
	20~30m	6.1	0.4~0.7							1	2.5		
しも	0~10m	6.2	0.4~0.7							1	2.5		
	10~20m	6.2	0.5~0.7					1	2.5				
	20~30m	6.2	0.5~0.9										

【参考資料】

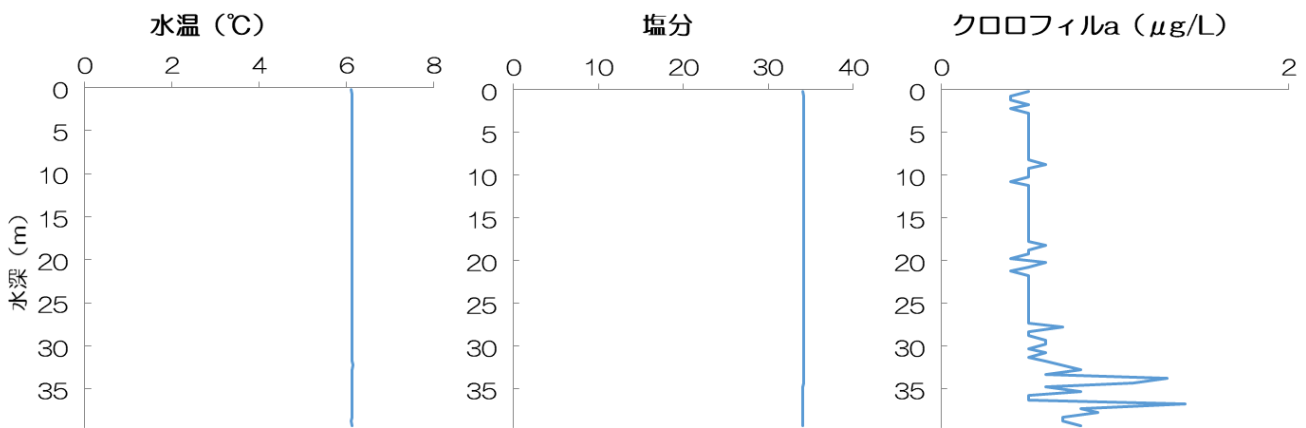


図1：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ付着量調査結果

- 部会の桁に設置した試験籠に**ザラボヤの付着が確認されました**。
- 試験籠の**付着数は48個体**で、各段の付着数は0～7個体、平均付着数は2.4個でした(図1)。
- 籠の上面に19個体、側面に15個体、下面に13個体が付着しており、**上面に付着が多いこと**がわかりました(図2：計測場所の概念図)。
- 部会の桁に設置しているザラボヤ付着プレートにザラボヤの付着が確認されなかったことから、**12月中旬から1月中旬のザラボヤ幼生の付着はほとんどなかったもの**と考えられます。

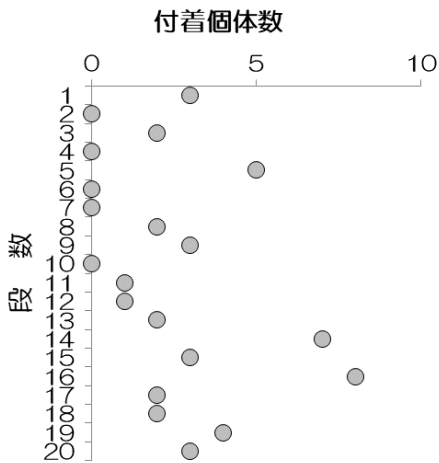


図1：試験籠におけるヨーロッパザラボヤの付着数と分布。段数は数字が小さいほど水面側を示しています。

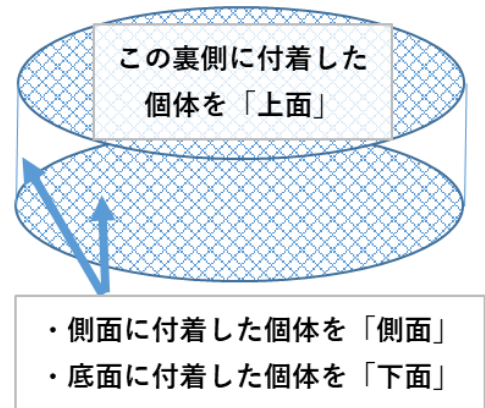


図2：試験籠の各段の計測箇所の概念図。

◎ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所(図4)

【試験籠の結果】

- 上面：25～66mmの小型～大型の個体が付着していました。また、上面のみ60mm以上の大型個体が確認されました。
- 側面：25～50mmの小型～中型の個体が付着。
- 下面：主に21～38mmの小型～中型個体が付着していました。

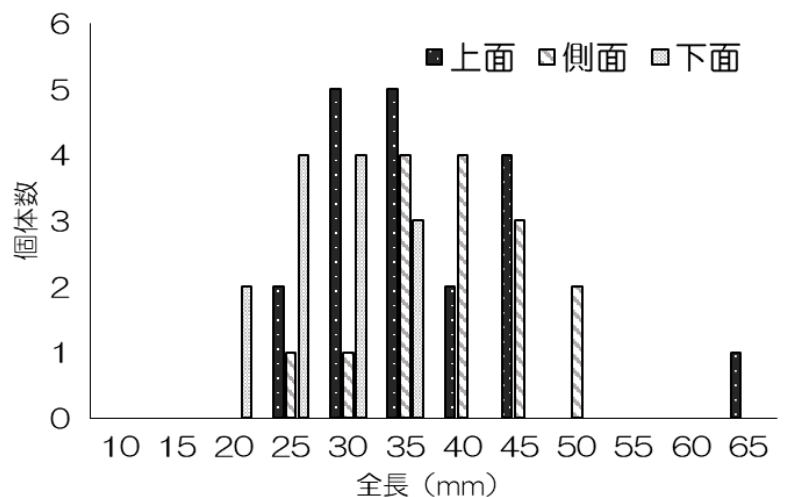


図4：ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所の関係。

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します。

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

※調査結果は中央水産試験場 HP から確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html>